

各地の話題 ー静岡県における植物防疫業務の取り組みー

静岡県病害虫防除所 尾崎久芳

静岡県は、本州の中央部に位置し、北部山岳地帯を除けば全般的に温暖な海洋性気候となっています。四季のはっきりした気候で、冬は乾燥して晴天が多く、平地では雪もあまり見られません。このような温暖な気候を利用し、傾斜地等を利用した茶、温州みかん、平坦地では温室メロン、イチゴ、トマトなどの栽培が行われています。

本県は、早くから施設園芸を中心に多品目の作物が栽培されていたため、病害虫の発生や侵入病害虫も多く見られる環境にありました。

本県の植物防疫事業は、行政的窓口となる県庁産業部農山村共生室と実務を担当する病害虫防除所、試験研究機関の農林技術研究所生産環境部、同茶業研究センター、同果樹研究センターが関係機関と連携を図りながら推進しています。

病害虫防除所は、平成8年度に県下5ヶ所に分散していた防除所が1ヶ所（磐田市）に統合され、全県を対象に病害虫発生予察調査等を実施しています。併せて主要な業務である農薬安全使用指導を行っています。

病害虫発生予察は、指定病害虫18作物64種類、県重要病害虫24作物142種類を対象にしており、県下330ヶ所の巡回ほ場を調査しています。さらに、県発生予察ほ場8ヶ所、地区発生予察ほ場10ヶ所、防除適期決定ほ場7ヶ所、病害虫防除員77名等の情報をもとに病害虫発生予察情報の作成・提供を行っています。（<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>）

予察精度の向上や侵入病害虫及び主要病害虫

の効率的な防除に必要な調査研究を行っており、職員の資質向上・技術研鑽に努めています。この成果としてはJPP-NETに利用されているアメダスデータに基づいたチャノキロアザミウマの世代ごとの柑橘園への成虫飛来時期の予測、茶の害虫クワシロカイガラムシの山間地第3世代の発生予測精度の向上、タバココナジラミのトマト等におけるバイオタイプB及びQの分布状況及びトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の遺伝子型などを明らかにしました。環境保全型防除技術は、県、農業団体、静岡大学との一

体的な連携をして推進しています。イチゴ、トマト、ナスなどの野菜でIPM技術の実証ほ場を設置し、農協技術員、病害虫防除員、普及指導員等の資質向上研修会を実施しています。防除所

では、実施指導者や講師を務めるなど関係者と一体となった取り組みを行っています。

一方、農薬安全使用指導では、病害虫防除基準の編集・公開を行っています。農薬の誤情報発信のリスクを軽減するため、農薬登録データベースをパソコンに取り込むプログラムを県独自で開発し、平成17年度からWeb（<http://www.s-boujo.jp>）公開をしています。指導者、農薬使用者に最新の情報を提供するようにデータ更新を随時しています。

農業経営の改善が求められる中、安心・安全な農産物を消費者に安定的に供給するためには、ますます病害虫発生予察情報は重要性を増し、農薬の安全使用と併せ推進していく必要があると考えています。



静岡県病害虫防除所（農林技術研究所内）と職員